

平成 29 年度第 2 回大船渡市総合戦略市民会議 会議要旨

この資料は、12月4日(月)に開催した平成29年度第2回大船渡市総合戦略市民会議における委員からの意見や提言等を取りまとめたものです。

第2回市民会議は、総合戦略の具体的な展開にあたり、市として、さらに意見・提言をいただきたい「結婚支援(※1)」と、総合戦略に掲げる様々な分野への波及効果が想定される「国際リニアコライダー誘致促進とまちづくり(※2)」の2つをテーマとし、グループワークにより議論いただきました。

委員は、2つのグループに分かれ、同テーマを所管する市の担当職員から情報提供と意見・提言をいただきたい事項の説明を受けた後「成果を上げるために取り組むこと」「市民に何ができるのか」等の視点で議論を深めました。

※1:「結婚支援」関連プロジェクト

311 結婚意識改革プロジェクト、 312 出会いと結婚まると応援プロジェクト

※2:「国際リニアコライダー誘致促進とまちづくり」関連プロジェクト、波及が想定されるプロジェクト

114 港湾物流機能強化プロジェクト

211 スローシティ大船渡プロモーションプロジェクト、 212 大船渡ファン獲得プロジェクト

221 大船渡スローライフ・スローフードプロジェクト、 222 移住総合支援体制構築プロジェクト

422 都市間交流連携プロジェクト

○日 時 平成 29 年 12 月 4 日 (月) 午前 9 時 30 分から午前 11 時 30 分

○場 所 大船渡市民文化会館リアスホール マルチスペース

○出席委員 12 名 (※五十音順 荒木健彦委員、大畑正彦委員、菊池透委員、紀室裕哉委員、熊谷あけみ委員、熊谷孝嘉委員、熊谷ナオコ委員、熊谷秀雄委員、志田聖一委員、中井孝委員、中野圭委員、中村卓也委員)

◎テーマ『結婚支援』

【市からの情報提供内容】

<現状>

- ・ 婚姻件数の減少傾向
- ・ 出生数の減少傾向

<目標>

- ・ 男女の出会いの場を提供しながら、結婚意識を高め、婚姻数を増やしたい
- 婚姻件数： H26 年 146 件/年 ⇒ H31 年 180 件/年

<課題>

- ・ 婚姻件数を増やしたい

<取組>

- ・ 結婚支援事業

結婚相談・支援センターの設置

同センターによる、結婚支援活動の企画・コーディネート、結婚相談及びマッチング

〔実績〕結婚相談件数 H28 のべ 571 件

〔検討事項〕

相談件数は多いが、会員同士の婚姻件数に結びついていない

〔平成 29 年度以降の取り組み〕

気軽に出会える機会（サークル活動、青年団活動をイメージ）の提供

結婚相談・支援センターと結婚応援企業が連携して、サークルを立ち上げ、将来的には、企業自ら企画・運営する体制を構築したい。

<第 1 回市民会議での意見等>

- ・ 結婚支援のメイン対象となる未婚の一般男女を対象としたプログラムを実施すべきだが、特に、これまでの「婚活パーティ」のような婚活前提ではなく、交流会のような気軽に参加・交流できる企画が有用ではないか。

<さらに意見・提言をいただきたいこと>

- ・イベントへの女性参加者を増やすには？
- ・企業の機運を高めるには？

【各委員からの意見・提言】

- ・イベントは一人では参加しにくい。友人や既婚者の先輩等のエスコート役も必要ではないか。
- ・友達同士や同じ趣味を持った人で集まることのできるような企画はどうか
- ・「結婚支援」を前面に押し出した企画自体が参加しにくくしているのではないか。
- ・結婚相談支援センターの名称にも抵抗感があり、登録しにくくしているのではないか。当事者ではなく、親が相談、登録するようなケースも多いと聞く。
- ・未婚女性が参加したくなるような仕掛けが必要。(タレントの活用など)
- ・同業種、異業種の企業同士の交流をもっと企画してはどうか
- ・社会福祉協議会の企画するイベントで「男磨き」「女磨き」をテーマとした交流企画を実施したところ、盛況だったと聞いた。このようなテーマも取り入れたイベントを企画することが、参加者を増やすことにもつながるのではないか。
- ・大船渡市は、どうしても「狭い土地柄」。イベントに参加すれば、参加していたことがいろんな所で広まってしまうと懸念している方も多いのでは。大船渡市という場所に捉われずに、当市以外の場所での実施や、市外の方とのマッチングを想定する企画等も検討してはどうか。
- ・子どもの頃から結婚、家族、子育てを意識付けるような取組は必要。
- ・今は企業、事業所から、対象となる人に対し積極的にイベントへの参加を働き掛けることは難しい。
- ・結婚を奨励する企業に祝い金を出してはどうか。
- ・女性には「トキメキ」が必要。女性参加者を増やすには、トキメキを演出する企画が重要。
- ・人と人とがゆるやかに繋がり、気軽に話せるような仕掛けが必要。「交友」が広がるような、緩やかな取組を行ってはどうか。
- ・女性も男性も交流の場が減っている。その改善には、もっと若い世代の方々から直接意見を聞いた上で、どのような支援が有効か、どのような取組ができるか検討すべきではないか。

◎テーマ『国際リニアコライダー（ILC）誘致促進とまちづくり』

【市からの情報提供内容】

<国際リニアコライダー（ILC）とは>

- ・「国際的な（International）直線の（Linear）衝突加速器（Collider）」を世界に一つだけつくろうという国際プロジェクト。
- ・電子と陽電子を光速に近い速度まで加速させ、正面衝突させることで、宇宙誕生直後に起きたビッグバンを人為的に再現させることにより、宇宙創成の謎、時間と空間の謎、質量の謎など、様々な科学の謎に迫る実験装置。
- ・現在は、地下約 100m に、総延長 20km での建設を検討しており、段階的に延長することを想定されている。

<ILC でわかること>

- ・現在、宇宙を構成しているもののうち、解明されているのは、全体の 4%。残り 96%のうち、22%は光では見えない「暗黒物質（ダークマター）」、74%は宇宙を加速度的に膨張させる「暗黒エネルギー（ダークエネルギー）」と考えられている。ILC はその正体を探る研究。

<ILC はどこにできる？>

- ・世界においては、日本が最有力建設候補地とされており、日本への誘致が決定した場合には、北上山地に建設することとされている。
- ・ILC の実験で衝突させる電子と陽電子は、目に見えない非常に小さな粒子のため、正確に衝突させるためには、振動が少ない固い「花崗岩」の岩盤が長く伸びている北上山地が ILC の

建設地として最適とされている。

<ILC はいつできる？>

- ・平成 30 年中に国が誘致に関する是非の判断をすると見込まれている。
- ・ I L C 誘致が決定した後、建設・調整等に約 10 年を要し、2020 年代後半～2030 年代前半での稼働開始が想定されている。

<ILC の波及効果>

- ・施設・設備などの建設資材や研究機器の搬入に伴う大船渡港の活用
- ・研究者やその家族の当市への来訪、移住などによる交流人口の増加
- ・通勤可能な距離であるので、研究施設や関連施設での雇用
- ・多文化が共生する国際都市圏が形成され、多様な文化に触れることができるなど、教育・文化分野における効果

<目標>

- ・国際リニアコライダーの誘致促進
- ・国際化に対応したまちづくり

<課題>

- ・ ILC 誘致促進、機運醸成
大船渡港利活用、市民の意識醸成など
- ・国際化に対応したまちづくり
国際交流、インバウンドなど

<取組>

- ・ ILC 推進室の設置
- ・ ILC 講演会の実施（市、商工会議所 等）
- ・ ILC 出前授業の実施
- ・ ILC 誘致に向けた要望活動
- ・ ILC 建設時の港湾利用を想定した活動
- ・ ILC 誘致促進看板の設置
- ・多言語表示（市ホームページ）

<意見・提言をいただきたいこと>

- ・ ILC 誘致の機運醸成に向けた取組
- ・国際化に対応したまちづくりに向けて企業、市民が出来ることは？
（コミュニケーション能力の向上、多言語による情報提供の充実、多文化理解推進のための交流活動 など）

【各委員からの意見・提言】

- ・まずは ILC について具体的に市民に伝えることが必要。
- ・ ILC の誘致実現やビックバンの謎を解明することが我々の生活にどのように関わるかしっかり PR されるべき。
- ・ ILC の波及効果や市民生活への具体的な関わりについて理解されることにより、ILC の誘致が実現することで、市民が未来への夢が持てるようになれば良い。これが、地域の持続にも繋がるのではないか。
- ・国際化に対応したまちづくりの一つとして、まず外国人が暮らしやすい状況となることが大切。スムーズに買物できるよう、カード決済への対応等が必要では。
- ・誰でもコミュニケーション出来るように、外国語翻訳機を配布してはどうか。
- ・岩手県、大船渡の良さをしっかりアピールできるよう、案内板をはじめとした多言語対応が必要。
- ・海外からの研究者らを迎える中で、外国人への差別をなくすことも必要
- ・内陸部に比べて、機運、盛り上がりが遅い。行政と民間が協力し、早急に取り組まないと取り残されてしまう。